

島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2013.SEP vol.28



CONTENTS

2・3 (特集) 企画展「山陰の黎明」 4 寧夏岩画展

5 れきはく通信／まいぶんセンター通信

6 学芸員通信

7 古代セン通信

8 れきはくごよみ

縄文人は何を食べ、
どんな道具を使い、
暮らしていたのか。
解明されつつある
縄文のムラと暮らしと
山陰地方の成り立ちを
紹介します。
現代に通ずる知恵、
高い技術力と精神文化、
わたしたちの知らない
縄文の世界、
縄文人の意外な一面や
魅力に迫ります。



Doki!

企画展

山陰の黎明

縄文のムラと暮らし

2013年10月4日[金]—12月1日[日]



縄文に、

とま

企画展 「山陰の黎明 -縄文のムラと暮らし-」

開催期間 2013年10月4日(金)～12月1日(日) 会期中の休館日 10/15、11/26

山陰地方では、遅くとも約8千5百年前には人々が定住していました。山陰の風土は、この時期以降に形成されたと考えられます。今回の企画展は、今まであまり語られてこなかった山陰地方の弥生時代以前の生活と社会について、紹介したいと思います。

● プロローグ

縄文土器は、世界に冠たる芸術です。国宝・新潟県笹山遺跡火炎土器など、優美な土器を展示し、縄文土器の造形美にふれます。



新潟県笹山遺跡火炎土器(国宝)

● 第1章 「日本海と宍道湖・中海の誕生」

日本海・日本列島の形成と、宍道湖・中海が誕生する様子を展示します。ここでは、長崎県泉福寺洞穴^{せんぶくじ}など、世界最古級とされる縄文土器も展示します。

● 第2章 「三瓶山噴火と人の生活史」

三瓶山の噴火によって、人々の生活がどのように変化したのかを紹介します。

● 第3章 「縄文人の生活」

衣・食・住や道具の製作など、人々の暮らしぶりを紹介します。最近発見された、佐賀市東名遺跡^{ひがしみやう}出土の籠が必見です。



佐賀市東名遺跡 編み籠

● 第4章 「縄文人の社会」

山陰地方の縄文人たちの日常的な生活圏を明らかにし、遠隔地との交流を紹介します。



鳥取県栗谷遺跡 木製匙

● 第5章 「呪術あふれる世界」

縄文時代の精神世界を紹介します。群馬県千網谷内遺跡^{ちあみがいと}土製耳飾り(重要文化財)、岩手県大原遺跡仮面(重要美術品)、同袋綿遺跡^{ほろわた}岩偶などは、芸術品としても評価が高い逸品です。



群馬県千網谷内遺跡土製耳飾り



岩手県袋綿遺跡岩偶

古代出雲歴史博物館 交流・普及課長 柳浦俊一

山陰地方は、荒神谷・加茂岩倉・妻木晩田・青谷上寺地などの弥生時代の遺跡が目立ちがちです。しかし縄文時代の遺跡を数えると、山陰地方は瀬戸内地方や四国地方よりも多くの遺跡が見つかるのです。こうした遺跡の発見によって、縄文時代の山陰地方は、研究者の間でも注目される存在です。

今回の展示では、「暮らしと社会」をテーマに、縄文時代について紹介します。山陰地方以外の資料も多いのですが、これは他地域との比較が必要と考えたからです。この展示をとおして、山陰の縄文社会について想像をめぐらせていただければ、と思います。

企画展 関連講座

◆平成25年10月5日(土) 「縄文研究 この20年の進歩」

講師：泉 拓良 氏 (京都大学総合生存学館教授)

◆平成25年10月12日(土) 「縄文入門講座①」

平成25年11月16日(土) 「縄文入門講座②」

講師：企画展担当学芸員 柳浦俊一

○時間：13:30～15:30 ○定員：各100名 ○無料

○場所：古代出雲歴史博物館 講義室

○申込方法：電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申し込みください。

企画展 ギャラリー・トーク

◆10月26日(土)・11月2日(土)・11月9日(土)・11月23日(土)・11月30日(土)

担当学芸員による展示解説。

○時間：11:00～/14:00～ (1日2回)

○受付：企画展入口 事前申込みは不要です。企画展観覧料もしくはパスポートが必要です。

企画展 関連イベント

■縄文の道具で芋掘り体験 (要申込・有料 定員30名)

縄文時代の道具で芋掘り。

日時：10月13日(日) 雨天の場合翌14日 場所：出雲市大社町内 現地集合となります。

詳細については博物館までお問合せください。

参加料：500円

■かけめぐりツアー (要申込・有料)

山陰を代表する縄文時代の遺跡「サルガ鼻洞窟遺跡」(予定)を学芸員と一緒に訪ねます。

日時：10月19日(土) 料金・コース詳細については博物館までお問合せください。

■縄文食体験 (無料)

縄文時代の食材を食べ比べします。

日時：11月3日(日) 10:00～11:30、13:30～15:00

場所：古代出雲歴史博物館 体験工房

■縄文時代のアクセサリーづくり体験 全2回開催 (有料)

貝殻のアクセサリーをつくろう

日時：1回目 11月10日(日) 2回目 11月24日(日) 10:00～15:00 随時受け付け

場所：古代出雲歴史博物館 体験工房

参加料：200円

■縄文コースターづくり体験 全2回開催 (有料)

日時：1回目 10月27日(日) 2回目 11月24日(日) 10:00～15:00 随時受け付け

場所：古代出雲歴史博物館 体験工房

参加料：200円

■縄文土器づくり体験 (要申込・有料 定員20名)

講師の指導のもと、縄文土器を作ってみよう。

日時：11月2日(土) 9:30～ 場所：古代出雲歴史博物館 体験工房

参加料：1,000円

申込方法：電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申し込みください。

寧夏岩画展の紹介

開催期間 平成25年9月19日(木)～9月24日(火)

平成5(1993)年10月6日に島根県と中国寧夏回族自治区が友好県区協定を結んで、今年で20年になります。この間、両県区では相互に訪問団の派遣・受入を行いながら文化交流や教育・学術交流を進めてきました。また、島根県では技術研修員の受入や環境改善協力事業も行っています。

平成25年10月に友好交流20周年を迎えるにあたり、これまでの交流の歩みにあわせて、寧夏回族自治区の貴重な文化遺産である賀蘭山の岩画を、世界の岩画と比較しながら、写真や拓本で紹介します。

岩画には先史・古代の人々の感情や信仰の様子などが反映されています。岩画に込められた人々の熱意や心情を感じ取っていただければ幸いです。



【岩画とは】

先史・古代の人々が山の岩に人や動物の姿、狩猟の様子などを彫ったものです。日本(北海道余市町のフゴッペ洞窟など)をはじめとし、およそ70カ国・150以上の地域から発見されています。賀蘭山の岩画は基本的に新石器時代から殷商時代(約1万年前～約3千年前)のもので、2万を超える岩画が発見されています。

【太陽神】

一般に太陽神とされるもので、頭から放たれる線が光線を表すと考えられています。



岩画(太陽神)



岩画(太陽神)拓本

【狩猟図・動物】

遊牧民が暮らした寧夏の地では狩猟が重要な役割を果たしました。その狩猟の成果への期待などが込められています。



岩画(狩猟)拓本

【人面】

世界的に見て、人面を彫った岩画は多くありませんが、賀蘭山、とりわけ賀蘭口からは700を超える人面像が確認されています。



岩画(人面)

【関連講座】

◆「寧夏岩画の概要」

講師：寧夏回族自治区博物館長 李進増 氏

◆「辺境要衝における濃密なシルクロード文化」

講師：寧夏文物考古研究所固原研究センター長 樊軍 氏

日時：9月21日(土) 13:00～16:00

各講座とも 定員：100名 場所：古代出雲歴史博物館 講義室 通訳付

申込方法：電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申し込みください。

今年度の博物館実習が行われました。

当館では、毎年博学連携事業の一環として博物館実習生の受け入れを行っています。この実習では、大学で学芸員課程を履修している生徒を対象に、博物館における学芸員の業務を実習するというものです。

今年度は8月19日から25日の1週間行われ、12名の大学生が熱心に学芸員の技術や博物館の現状を学びました。実技実習では掛け軸や巻物、壺など様々な資料を扱いました。

また、実習は展示や研究だけでなく、普及事業や広報などの講義もあり、実際の博物館で行われている業務の一端が垣間見えたと思います。

実習の後半は3班に分かれ模擬展示を行いました。自分たちで展示のテーマや展示品を考えて企画書を作り、レイアウトやパネルの制作など分担して行っていました。身近にある髪留めをテーマにしたり、折り紙を使い自分たちでテーマに沿った展示品を作るなど、それぞれの班の個性が発揮されていました。模擬展示発表の前日は予定されていた終了時刻より1時間以上長く展示作業が行われました。3つの模擬展示はどれもよく考えられた内容で、講評を行った学芸員も実際の博物館の展示に反映できるレベルだと驚いていました。

1週間という短い間でしたが、皆さんの熱心さが非常に感じられました。学芸員資格の取得を目指す者同士、親睦も深まったようです。この実習で学んだことは博物館だけでなく、社会の様々な場面で発揮できると思います。実習生の皆さんが学芸員となり、再びお会いできることを楽しみにしています。



[まいぶんセンター通信]

島根県埋蔵文化財調査センター

いにしえ倶楽部開催

埋蔵文化財調査センターでは、島根県の歴史・文化をより身近に感じていただくことを目的に、センターが保管する遺物などを活用した体験講座を毎年3回程度開催しています。

今年度は第1回目として、8月18日（日）に『チャレンジ！古代鏡作り』と題し、埋蔵文化財調査センターで古代の鏡作り体験を開催しました。

初めに埋文センター専門職員が、遺跡から出土した本物の鏡などを使って古代の鏡について解説し、早速鏡作りにチャレンジです。今回は鍋とコンロを使って約140度で溶ける金属を溶かし、シリコンの鋳型に流し込んで金属鏡を作りました。硬い金属が溶け出すと驚きの声があがりました。出来上がった鏡は約1時間をかけて磨きます。参加した皆さんは根気強く作業され、最後はピカピカに光る鏡を作ることができました。「楽しかった！」「自分の顔が写る。」「もっとしたい。」という、すてきな夏休みの体験となりました。



遺跡から出土した本物の鏡や模倣品を見ながら鏡について勉強しました。



硬い金属が鍋の中で溶けだすとあちこちで驚きの声があがりました。



みなさん約1時間一生懸命鏡を磨きました。

今年度のいにしえ倶楽部は以下の内容で3回実施します。詳細が決まり次第、下記のホームページに掲載しますので、みなさんぜひご参加いただきますよう、よろしくお祈いします。

タイトル	会場	内容	参加者	実施日	募集定員
第61回いにしえ倶楽部『チャレンジ！古代鏡作り』	松江市打出町 島根県埋蔵文化財調査センター	低融点金属を使った鏡作りと埋文センター見学	90名	8月18日	40名
第62回いにしえ倶楽部『おやこ発掘体験 IN 仁摩』	大田市仁摩町古屋敷遺跡	親子等での遺跡の発掘体験	-	9月21日	30名
第63回いにしえ倶楽部『出雲の王墓探訪～いにしえの古墳ロードを歩く～』	松江市大草町、大庭町、 矢田町、朝酌町	大型古墳を見学しながらの古代道（推定地）ウォーキング	-	10月21日	30名

URL:<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

中央ロビー展示紹介

○「出雲大社本殿階隠の屋根材」「出雲大社本殿筋金具」

階隠とは、本殿正面にかかる階段の上にある屋根のことです。今回中央ロビーで展示しているのは、平成の大遷宮で取り替えられたものです。檜皮葺の厚さが最大45cmあります。檜皮は文字通り檜の皮で、一枚ずつ無数の竹釘で固定します。この上に土井葺(板葺)したのち、さらに檜皮を葺きます。その後、屋根材の端面にあたる軒付を手斧で丁寧(ちょうな)に削り、整形します。この丁寧かつ繊細な造りこそが出雲大社本殿を風雨から守るために伝えられた技術なのです。

今回展示している筋金具は3点で、全て本殿に取り付けられていました。本殿屋根の垂木の先端に取り付けられていた金具①と、手すり(高欄)を飾る金具②、礎石上に組まれた地長押(複数の柱を水平につなぐ横木のこと)の金具③です。それぞれ表面に出雲大社の神紋である二重亀甲に剣花菱紋などが施されています。高欄の飾り金具は、新しい金具を製作するための原型にするため、表面の緑青が落とされています。

これらの資料は平成26年3月17日まで中央ロビーで展示予定です。



階隠(軒付)



筋金具①



筋金具②



筋金具③

○「出雲大社境内遺跡模型」

平成12(2000)年に出雲大社拝殿の地下室建設に伴う発掘調査が行われました。その発掘調査で発見された出雲大社本殿の心御柱や宇豆柱の出土位置と、現在の建物の配置とを比較するための模型です。出土した宇豆柱を分析した結果、宝治2(1248)年に造営された本殿の柱だと考えられます。この発掘調査では、宝治2年の本殿以外にも古墳時代の勾玉などの祭祀遺物が出土していたり、慶長期に造営された本殿の礎石跡も発見されています。

出雲大社本殿は現存する延享元(1744)年の造営以前は、造営の度に本殿の位置を代えているようです。このように発掘調査の面積は境内地のごくわずかですが、確認された遺構の年代には幅があり、検出位置も大変複雑になっています。

中央ロビーに展示しているこの模型をご覧ください。過去の出雲大社の造営と出土した柱、現在の出雲大社本殿とを比較していただき、出雲大社の歴史を思い起こしていただければと思います。



出雲大社境内遺跡模型

隠岐黒曜石テーマ研究について

「隠岐産黒曜石の研究が始まりました。」

島根県古代文化センター 稲田陽介

今年度から、古代文化センターでは「隠岐産黒曜石の獲得と利用の研究」と題して、隠岐の島で産出する黒曜石の研究を始めました。

隠岐島の島後地区に有名な黒曜石産出地が3ヶ所あります。隠岐の島町久見、加茂、津井の3ヶ所です。そのうち、広島大学が久見の発掘調査を近年実施しました。現在、その発掘調査の成果によって隠岐産黒曜石の採集や採掘の様相について広く議論されています。島後地区には他にも規模の小さい黒曜石産出地が数カ所確認されています。今後、島根県や各大学が進める調査研究と連携しつつ、隠岐の島における黒曜石の獲得の研究を進めていきます。

まず、考古学を専門とする職員が隠岐諸島各地を歩いて目視による確認を行い、黒曜石の産出地が新たに発見されないか、あるいは黒曜石製の石器や古い時代の土器など人類活動の痕跡が散布していないか探します。この調査によって隠岐諸島での人類の活動がさらに明らかにできるものと考えています。これまで行った現地調査（写真①海岸での調査）では、黒曜石製の石器が土中から見つかったり、海岸で黒曜石の破片が発見されたり（写真②のカメラキャップの右）、古墳時代の焼き物が見つかったりしています。隠岐諸島ではこのような遺跡の広がりを確認する調査がこれまでほとんど進んでいませんでした。今後、地元教育委員会とも連携し調査を進めていきたいと考えています。

また、隠岐の島の黒曜石は、旧石器時代から中国地方で広く利用されています。離島という条件がありながら長く利用される黒曜石。その資源的価値および各時代の流通形態を検討し、隠岐産黒曜石の利用の特質を探っていきます。今年度は隠岐産黒曜石の出土地を集成し、今後の研究を行う材料を集め、隠岐産黒曜石の出土地場や出土量に何らかの傾向が見られないか検討します。

隠岐産黒曜石の研究は平成27年度まで行います。新たな発見がありましたら、皆さんにお知らせしようと考えていますので、ご期待下さい。



写真①



写真②

秋のイベントのご紹介

観月会 9月19日(木)

時間：19:00～21:00
 ①抹茶・お団子振る舞い ②アーティスト3組によるパフォーマンス
 ③ナイトミュージアム「寧夏岩画展」 いずれも無料

敬老週間 9月15日(日)～21日(土)

65歳以上(昭和23年12月31日以前生まれ)のお客様は観覧料が無料になります。年齢の確認ができるものをご提示ください。
 ※期間中9月17日(火)は休館日です。

銅鐸記念日 10月14日(月・体育の日)

毎年恒例となりました、銅鐸鑄造実演「銅鐸博士と銅鐸職人」を開催。透明の銅鐸形状のシリコン製鑄型に緑色の蠟を流し込み、鑄造の様子を再現します。
 時間：11:30～ / 13:30～ (1日2回)

れきはく秋まつり 11月3日(日)

時間：10:00～16:00
 ①伝統芸能(予定) ②勾玉づくり体験 ③古代衣装体験 ④れきはくなんでも市
 ⑤企画展関連「縄文時代の食材試食」 詳細についてはお問合せください。



企画展スケジュール

企画展

「山陰の黎明」

－縄文のムラと暮らし－

平成25年10月4日(金)～12月1日(日)

山陰地方では、この20年間に多くの縄文遺跡が発掘され、中四国でも有数の遺跡数を誇ります。この豊富な資料をもとに研究を進めた結果、山陰地方の縄文時代の人々がどのような生活を送り、どのような社会に生きたのか、を紹介します。詳しくはP-2をご覧ください。



特別展

神々の国しまね

「隠岐之国」－島々の歴史と文化－

平成25年12月27日(金)

～平成26年2月23日(日)

隠岐諸島は離島ながらも「隠岐国」と称され一国として扱われていました。旧石器時代から近世にかけて特異な地理的条件を起因とした他地域には見られない波乱に満ちた展開を、各種資料をとおして概観します。



特別展

滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美

「近江巡礼」

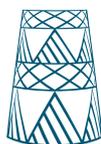
－祈りの至宝展－

平成26年3月28日(金)～5月11日(日)

滋賀県には仏教美術や神道美術をはじめ多くの文化財が守り伝えられており、それらを守り伝えるうえで大きな役割を果たしてきた滋賀県立琵琶湖文化館の寄託品・収蔵品から、日本の文化が集約されたような滋賀県の至宝をご紹介します。



発行/平成25年9月



島根県立古代出雲歴史博物館
 Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
 TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
 URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : contact@izm.ed.jp
 開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん